

全国プラットフォーム型・地域ボトムアップ型事例

- 1 全国プラットフォーム型事例P.1
 - (1) 石川県輪島市輪島カブーレほか（社会福祉法人佛子園）
 - (2) 岩手県遠野市ほか（一般社団法人Next Commons Lab）
 - (3) 山梨県小菅村ほか（ランサーズ株式会社）
 - (4) 東北食べる通信ほか（一般社団法人日本食べる通信リーグ）
- 2 地域ボトムアップ型事例P.5
 - (1) 岡山県西粟倉村「百年の森林構想」
 - (2) 高知県「集落活動センター」
 - (3) 島根県江津市「Go-Conビジネスプランコンテスト」
 - (4) 大阪府「大阪府営泉佐野丘陵緑地」

1(1) 石川県輪島市輪島KABULETほか（社会福祉法人佛子園）

- 中心市街地の活性化の切り札として「生涯活躍のまち」を軸としたまちづくりに取り組んでいる。
- Share金沢の「ごちゃませ」のコンセプトをさらに進化させ、規模を拡大し市民全体に波及を目指す。
- 青年海外協力協会とも連携し、輪島カブーレをかわきりに、これら取り組みを全国展開予定



市の中心部の空き地や空き家などのストックを活用



複数の施設を「ごちゃませ」に配置することで、年齢や障害の有無などに関係なく、色々な人々が集まり、働き、日常的に関わり合うまちの形成



観光客や地域住民の新たな移動手段として電動カートを活用した新交通システムを導入

年間約1,000人の帰国隊員 120職種以上の多様な専門性を持った人材



施設配置だけでなく、工芸品としての漆を含め、気軽に触れ合える漆の活かし方をみんなで考え、日常的に漆があふれる町づくり、町の歴史文化を次世代に受け継いでいく「人」を主役にした町づくりに取り組んでいる。

輪島カブーレ認証システムにより新しい価値の創出

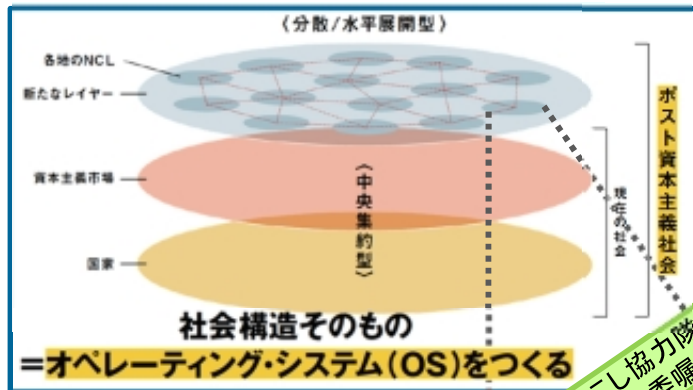


出典: 輪島KABULET HPより国土政策局作成

1(2) 岩手県遠野市ほか（一般社団法人Next Commons Lab）

- Next Commons Lab(2015年～、ネクストコモンズラボ)は、コミュニティというより、共通の価値観をベースにしたメンバーの集まる組織
- これら共通のプラットフォームを遠野をはじめ2018年全国10箇所で展開予定

“ポスト資本主義社会を具現化する”



Next Commons Lab

10のプロジェクト がスタート

 Beer Experience × KIRIN	 発酵プロジェクト × 〇〇〇〇		
 Local Tech Lab × 〇〇〇〇	 里山経済 プロジェクト	 限界集落 株式会社	 産前・産後 ケアプロジェクト
 超低コスト 住宅プロジェクト	 遠野デザイン プロジェクト	 遠野グローバル スクール	 フードハブ プロジェクト

in 遠野

国／自治体
地域パートナー

企業

資本／技術 提供

フィールド：各地域

共通の
ビジョン

個人／起業家

アイデア／プレーヤー

オープン・ソース化
2018年には全国10ヶ所
2020年までに100ヶ所

- ① 遠野市(岩手県)
- ② 加賀市(石川県)
- ③ 南三陸町(宮城県)
- ④ 奥大和(奈良県)
- ⑤ 弘前市(青森県)
- ⑥ 南相馬市(福島県)
- ⑦ 湖南市(滋賀県)
- ⑧ 西条市(愛媛県)
- ⑨ 山口市(山口県)
- ⑩ 渋谷区(東京都)

1(3) 山梨県小菅村ほか（ランサーズ株式会社）

○ ランサーズ株式会社では、クラウドソーシングという「新しい働き方」の仕組みとそれを実践する「人」を活用した地方創生を、地方自治体とフリーランサーに提供し、地域の活性化を支援するサービス（エリアパートナープログラム）を実施

クラウドソーシングの仕組み

「クラウドソーシング」は、仕事を依頼した企業と、仕事をしたい個人がインターネット上で個別に契約し、打ち合わせや納品までインターネット上で完結します。このため時間や場所にとらわれない仕事の受発注が行うことが可能です。

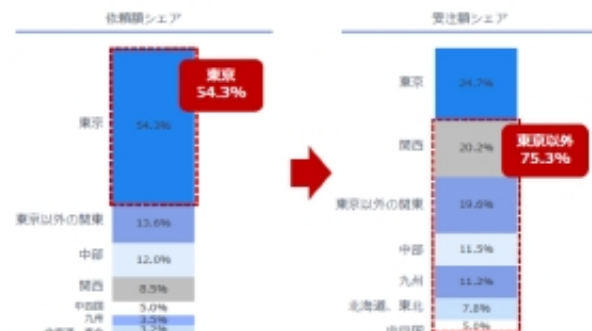


山梨県小菅村、NPO法人多摩源流こすげ

ランサーズ、小菅村、NPO法人多摩源流こすげの三者連携協力に関する協定を締結
 三者は、廃校となった小学校の一部をコワーキングスペース兼コミュニティスペースとして活用し、クラウドソーシングでスキルアップしていくためのオンライン講座を2016年7月より提供
 移住者や村民が、コワーキングに集まりオンライン視聴する講座方式を通じて、地域内コミュニケーションの活性化も実現
 ランサーズと小菅村は、本事業を通じて中山間地域や山村地域、離島など地理的制約がある地域でも、新しい働き方を学ぶことができる地域モデルの確立を目指す。



○ 依頼額・受注額シェア(ランサーズ)



- ※1 54%が東京から発注され、それらを受注している75%は東京以外の地域
- ※2 登録ワーカー(ランサー)の8割は地域在住者

出典：ランサーズ株式会社HPをもとに国土政策局作成

鹿児島県 奄美市

ランサーズと鹿児島県奄美市は2015年7月に提携し、「フリーランスが最も働きやすい島化計画」を発表。
 2020年までに200名のフリーランスを育成すること、50名のフリーランス移住者を誘致することを目標に、現在、フリーランスコミュニティの立ち上げや、フリーランス向けの教育プログラムを自治体とともに開発、実施



長崎県 大村市

ランサーズと長崎県大村市では移住定住施策として、都市部の映像クリエイターを誘致したフリーランス合宿を開催。
 合宿中に地域住民とのワークショップ、交流、現地視察を実施し、クリエイターのよそ者からの目線で地域の魅力を伝えるPR動画を制作(2018年内に完成予定)。各種イベントやメディアでプロモーションを展開していく。



1(4) 東北食べる通信ほか（一般社団法人日本食べる通信リーグ）

日本食べる通信リーグ(全国37団体)

- 「食べる通信」は生産者の生き様や生産現場の物語、食べ物をセットにした定期購読誌
- 食材の背景やそのありがたみ、これからの食のあり方などについて考えるきっかけとなり、地方の生産者と都市の消費者を、情報を介してつなぐ

地域の独自性を活かす「リーグ方式」

一般社団法人 食べる通信リーグ

➢ 商標や知財、システムの管理を行う統括

リーグ運営会議

- ・ 新規参入のレギュレーション管理
- ・ コンテンツ、ノウハウを共有し共同プロモーション

(地域の単位及び組織形態は問わない)



消費者

(出典)日本食べる通信リーグホームページより国土政策局作成
第3次食育推進基本計画(農林水産省、平成29年3月)

○ 東北食べる通信 『東北発の「食べもの付き情報誌」』



誌面には、生産者のストーリー、旬の食材を楽しめるオリジナルレシピ、農法や漁法のわかりやすい解説、現地の文化などを掲載

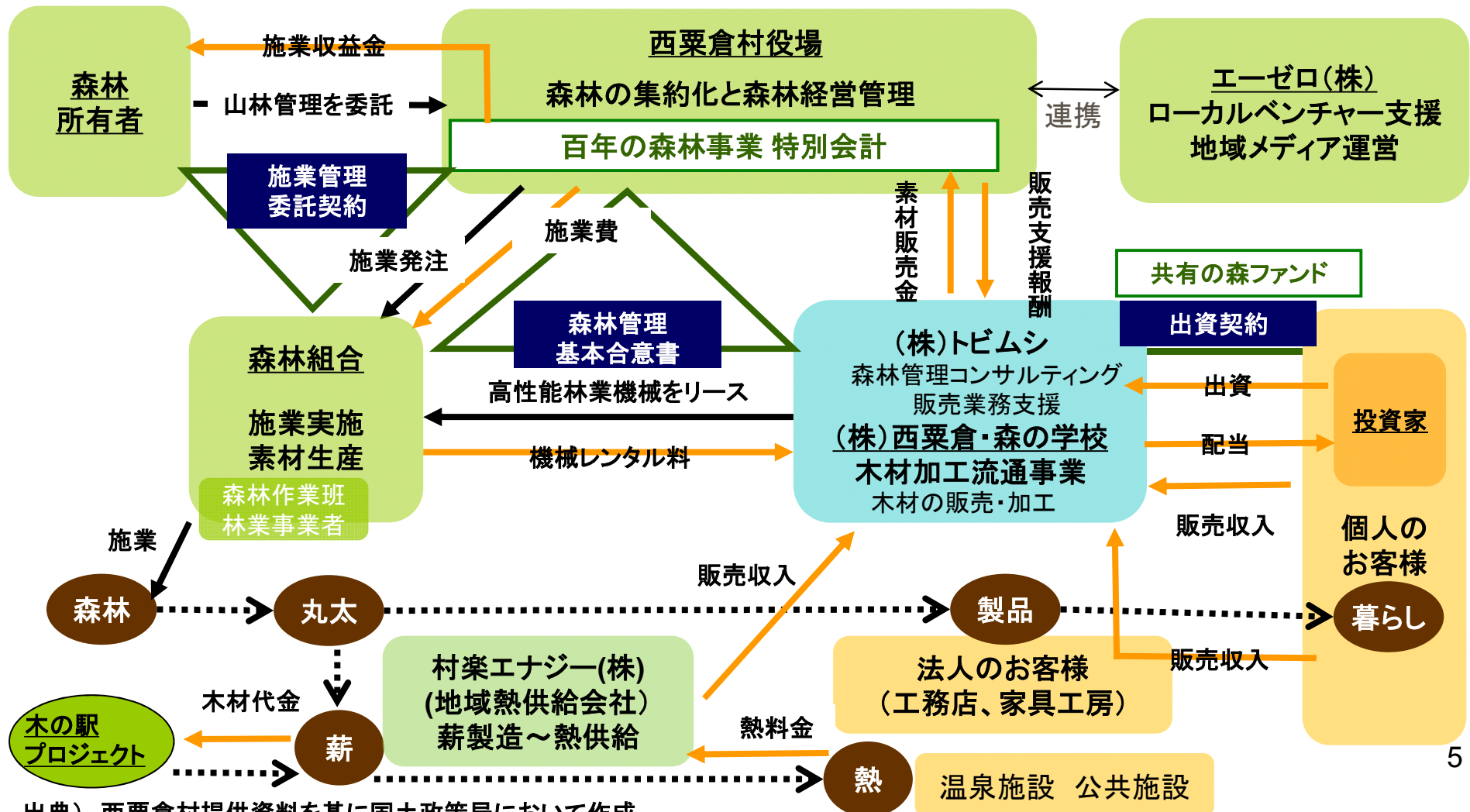


生産者のストーリーを知る、旬の食材を料理して食べるだけに留まらず、会員限定のSNSで生産者との交流することができるほか、生産者と直接会える機会を多数設けている。

(出典)東北食べる通信HPをもとに国土政策局作成

2(1) 岡山県西粟倉村「百年の森林構想」

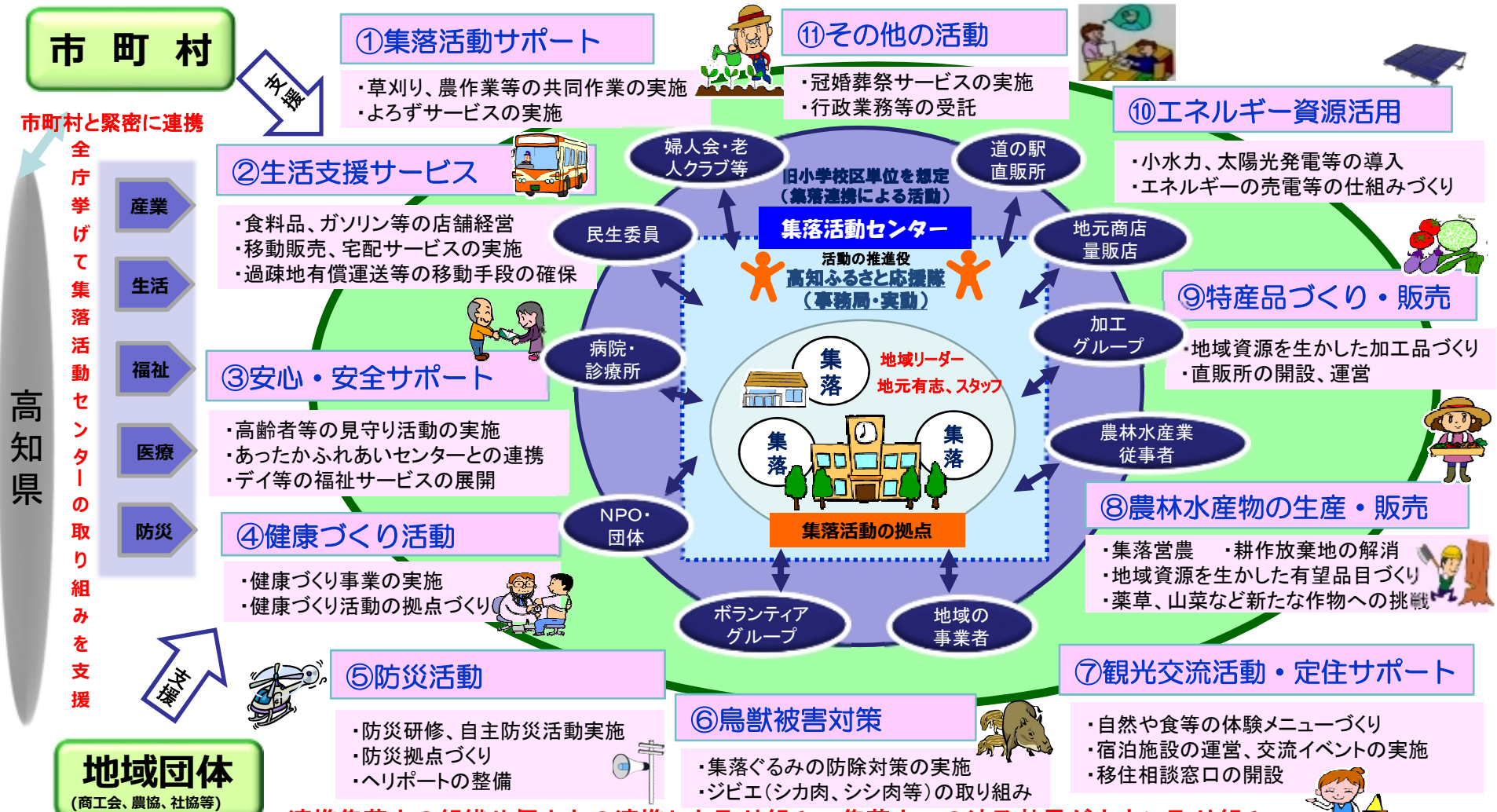
- 移住・関わり等を希望する人々にもわかりやすい地域の将来像を掲げ、それに呼応し担い手が集まるという好循環を達成している地域が出現している。
- 具体的には、「百年の森林構想」の旗を掲げ、選択と集中により森林を世代を超えて、守り育てる岡山県西粟倉村と多様な主体の連携により取り組まれている。



出典) 西粟倉村提供資料を基に国土政策局において作成

2(2) 高知県「集落活動センター」

○ 地域住民が主体となって、旧小学校や集会所等を拠点に、地域外の人材等を活用しながら、近隣の集落との連携を図り、生活、福祉、産業、防災などの活動について、それぞれの地域の課題やニーズに応じて総合的に地域ぐるみで取り組む仕組み



連携集落内の組織や個人との連携した取り組み・集落内への波及効果が大きい取り組み

出典:「集落活動を支える 小さな拠点づくり」梶原町資料抜粋

2(3) 島根県江津市「Go-Con(ビジネスプランコンテスト)」

- 島根県江津市では、2006年度から「守りの定住対策」を展開。田舎暮らし志向の都市住民を移住させる仕組みづくりに着手。
- リーマンショック後、働き場をつくり出すことができる人材を誘致するため、2010年度から「攻めの定住対策」に取り組む。

都市住民を移住誘致
「守りの定住対策」

「空き家」は紹介できても働くところ「仕事」が紹介できない

企業誘致+起業人材誘致
「攻めの定住対策」

成 果



中間支援組織(NPOでござねっと石見)の発足

中心市街地活性化やキャリア教育の担い手

NPO法人⇒中心市街地整備推進機構

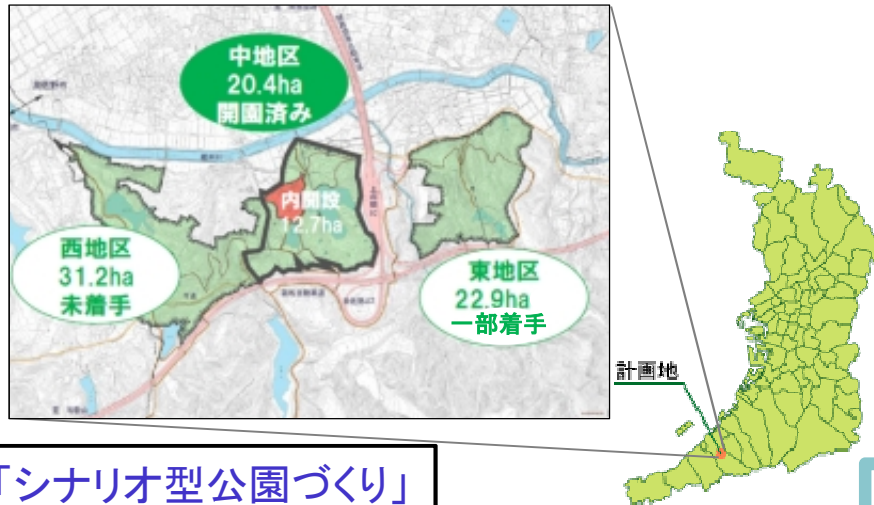
起業家支援コンソーシアムの結成
(江津市、NPO法人、商工会議所、商工会、金融)

新しいビジネスの創出

空き店舗を活用した起業の促進

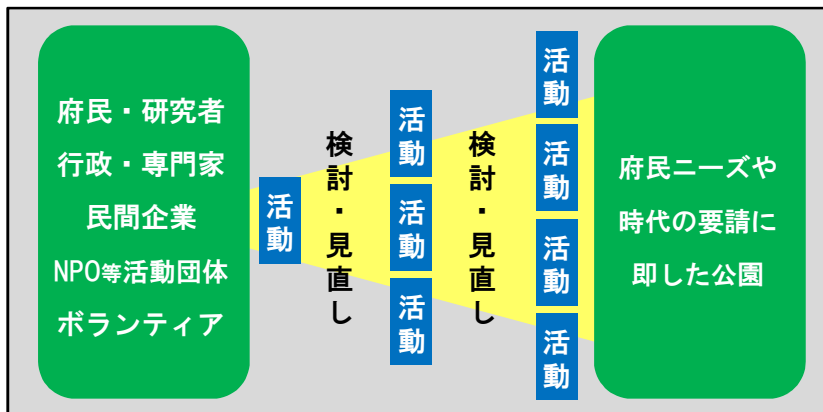
2(4) 大阪府 「大阪府営泉佐野丘陵緑地」

- 大阪府営 泉佐野丘陵緑地は、ボランティア団体「パーククラブ」をはじめとする府民と大阪府が計画づくりの段階から一緒につくっていく、使う人々がつくる、使いながらつくる公園。
- この新しい公園づくりに賛同した企業グループ「大輪会」(関西の企業53社)からの支援。



「シナリオ型公園づくり」

計画の段階から、府民、企業、学識者、行政が同じテーブルにつき、協働で事業を進める。



⇒時代のニーズに対応可能な、日々、進化する「つくり続ける公園」

出典) 泉佐野丘陵緑地提供資料及びヒアリングをもとに国土政策局作成

大輪会
関西を基盤とする企業グループ

大阪府
公園の計画、整備管理運営を企業(大輪会など)と府民(パーククラブ)とともに進める
→泉佐野丘陵緑地の「公園づくりの枠組み」そのものに位置づけ

寄贈された機械

泉佐野丘陵緑地
パーククラブ

パークレンジャー養成講座の修了生で構成(ボランティア)

会員数:96名(男性75名、女性21名)
60代以上が80%を占める。

80代前半	20代	30代
1%	2%	1%
70代後半	40代	50代
21%	10%	7%
70代前半	60代前半	60代後半
32%	10%	16%

- 園路竹林チーム**
園路の整備や増設、竹林の維持管理などに取り組む。
- 棚田チーム**
レンジャー棚田や茶畑の維持管理や、お米や野菜の育成などに取り組む。
- 自然ふれあいチーム**
園内の植物調査やササユリ保全、昆虫や野鳥の観察会開催などに取り組む。
- 果樹樹木キノコチーム**
園内の果樹や樹木の育成と管理、キノコの調査と栽培などに取り組む。
- 竹工作チーム**
園内の竹を使って、竹とんぼや水鉄砲。楽器などの工作に取り組む。
- 天神川流域チーム**
公園に隣接する天神川流域で虫の調査(大阪府立大と共同)や観察場所の整備に取り組む。